

べっしょじょう  
No.88 別所城

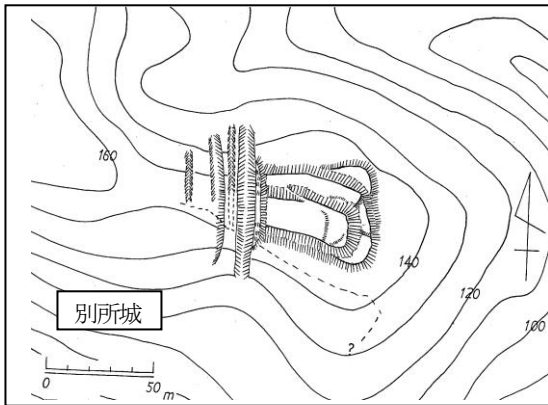
舞鶴市字別所小字西谷他

- ・遺構---曲輪、堀切、土塁、・占地---尾根
- ・標高---150m ・比高---95m
- ・遺跡地図番号---231

この城は別所集落に張り出した尾根の先端に位置し、池内川上流部への展望は良好である。

主郭は西側の尾根を堀切で遮断し、その先は切岸としている。主郭の規模は東西40m南北15m程で堀切側には土塁を敷設している。北東側には二段の帯状曲輪がある。山麓にある別所集落との関係は不明であるが、地元では城山（じょうやま）と呼んでいる。

城主は近世の記録では既に不明となっている。（今回、踏査したところ当城の遺構は遺跡地図番号231の東300mにあることが判明した。）



しらたきじょう  
No.89 白滝城

舞鶴市字白滝小字ヒウチ他

- ・遺構---曲輪、土塁、堀切・占地---山頂
- ・標高---310m ・比高---120m
- ・遺跡地図番号---233

この城は別所から白滝に抜ける道の北方に位置する。主郭には櫓台とみられる東西15m南北10mの土壇がある。主郭東側の尾根の堀切の先に長さ30mの曲輪があり、その先も堀切で遮断している。主郭から北に延びる尾根には小規模な七段の曲輪があり、上林方面の街道監視だけでなく、北方への警戒も配慮された城館といえる。

連歌師の里村紹巴は蛇島で過ごした後、安久の城から岸谷を超えて上林経由で京に戻っているから、この付近が重要な街道であったことが伺われる。城主については近世の地誌類でも不詳としている。

